

マダニが媒介する感染症について

平成29年5月1日(月) 13時00分

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課
電話：011-231-4111 (内線25-506)

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のマダニ(食品等に発生する「コナダニ」や、衣類や寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など家庭内に生息するダニとは全く種類が異なる)で、ダニ媒介感染症(ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)など)の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。これからの時季、山菜採りや登山・キャンプなどで自然とふれあう機会が増えることから、マダニに咬まれ、ダニ媒介感染症に感染しないよう、道民に広く注意喚起を図ることとしたのでお知らせします。

記

1 道内のダニ媒介感染症について

北海道内で過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症のは下表のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15日程度	発熱(微熱であることが多い)、倦怠感、慢性遊走性紅斑、希に心筋炎・髄膜炎
回帰熱	7～10日程度	発熱(39℃以上)、筋肉痛、関節痛、倦怠感等
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎等

これらは、インフルエンザのように容易に人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して伝染することはありません。

ダニ媒介脳炎は、ウイルスが混入した生乳を飲んで感染した例がヨーロッパで知られていますが、ウイルスは72℃10秒で死滅するため、殺菌処理された市販の牛乳から感染することはありません。

2 予防方法

マダニに咬まれないようにすることが重要です。マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。

屋外活動後は、すぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

3 マダニに咬まれたら

マダニは体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがありますので、医療機関(皮膚科等)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱、食欲低下、おう吐、下痢等の症状が認められた場合は医療機関(内科等)で診察を受けてください。受診の際は、いつ、どこを咬まれたか、山などに行ったかを医師に伝えてください。

【ダニ媒介感染症の発生状況】

○ライム病の届出件数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
北海道	5	6	9	3	5	0	(人)
全国	12	20	17	9	8	1	

○回帰熱の届出件数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
北海道	0	1	1	4	5	0	(人)
全国	1	1	1	4	7	0	

○ダニ媒介脳炎の届出件数

これまで国内で、平成5年(1件)及び平成28年(1件)の2件のみ(いずれも道内)。

*ダニ媒介感染症については、[北海道保健福祉部健康安全局地域保健課ホームページ \(http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/ticks.htm\)](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/ticks.htm) においても注意喚起を図っています。

*道内の感染症発生状況については、[北海道立衛生研究所北海道感染症情報センターホームページ \(http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html\)](http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html) にて公開しています。

公表日 平成29年7月11日
 所管課 北海道保健福祉部健康安全局
 地域保健課感染症・特定疾患G
 連絡先 011-231-4111
 (内) 25-506

マダニが媒介する感染症の予防について

今般、北海道においてダニ媒介脳炎患者の発生が確認されました。
 ダニ媒介脳炎患者の発生は昨年度に続き国内3例目（いずれも道内）です。
 道内では毎年、回帰熱、ライム病を含めたマダニが媒介する感染症の発生報告があります。ダニに咬
 まれないよう予防措置を講じるとともに、咬まれた場合には医療機関で除去してもらいましょう。もし
 発熱等の症状が出た場合には、早期に医療機関を受診し適切な治療を受けることが重要です。

記

1 今般発生したダニ媒介脳炎事例の概要

・疾病名	ダニ媒介脳炎（四類感染症）
・発生届	7月11日、市立函館保健所管内の医療機関から発生届の受理 同日、函館市から当課に報告
・経過	6月中旬発症、医療機関から市立函館保健所に連絡。 明確なダニの刺咬部位は確認できないものの、医師が症状等からダニ媒介感染 症を疑ったため、道立衛生研究所において検査実施。
・検査結果	6月20日及び7月3日に採取した血液により、ダニ媒介脳炎の抗体価上昇を 確認。北海道大学大学院獣医学研究院の協力で行った中和抗体検査で陽性と判 明。

(参考)

区 分	平成5年	平成28年	今般事例
発生届医療機関の所在地保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所
性別・年齢	女性・30歳代	男性・40歳代	男性・70歳代
感染したと推定される地域	道南圏域	不明（最近の海外・道外旅行歴なし）	調査中
その他		死亡	死亡

2 ダニ媒介感染症とは

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニ（食品等に発生する「コナダニ」や、じゅうたんや寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など住宅内に生息するダニとは種類が異なる）で、ダニ媒介感染症（ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など）の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。

3 道内のダニ媒介感染症

道内で過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症のは下表のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15日程度	発熱（微熱であることが多い）、倦怠感、慢性遊走性紅斑、希に心筋炎・髄膜炎
回帰熱	7～10日程度	発熱（39℃以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感等
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎等

これらは、インフルエンザのように人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して伝染することはありません。

ダニ媒介脳炎は、ウイルスが混入した生乳を飲んで感染した例がヨーロッパで知られていますが、ウイルスは72℃10秒で死滅するため、殺菌処理された市販の牛乳から感染することはありません。

4 予防方法

マダニに咬まれないようにすることが重要です。マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。

屋外活動後は、すぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

5 マダニに咬まれたら

マダニは体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがありますので、医療機関（皮膚科等）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱、食欲低下、おう吐、下痢等の症状が認められた場合は医療機関（内科等）で診察を受けてください。受診の際は、いつ、どこを咬まれたか、山などに行ったかを医師に伝えてください。

6 主なダニ媒介感染症の発生状況（届出件数）

(1) ライム病

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29*
北海道	5	6	9	3	5	3
他都府県	7	14	8	6	3	1

(人)

(2) 回帰熱

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29*
北海道	0	1	1	4	5	0
他都府県	1	0	0	0	2	0

(人)

(3) SFTS

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29*
北海道	0	0	0	0	0	0
他都府県	0	48	61	60	53	40

(人)

(4) つつが虫病

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29*
北海道	0	0	0	0	0	0
他都府県	436	344	320	419	110	96

(人)

(5) 日本紅斑熱

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29*
北海道	0	0	0	0	0	0
他都府県	171	175	240	213	243	99

(人)

*H29 は第 2 6 週までの数

*ダニ媒介感染症については、北海道保健福祉部健康安全局地域保健課ホームページ (<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/ticks.htm>) においても注意喚起を図っています。

*道内の感染症発生状況については、北海道立衛生研究所北海道感染症情報センターホームページ (<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>) にて公開しています。

*参考：ダニ媒介脳炎に関する Q&A (http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou18/mite_encephalitis.html)

公表日	平成29年8月 8日
所管課	北海道保健福祉部健康安全局 地域保健課感染症・特定疾患G
連絡先	011-231-4111 (内) 25-506

ダニ媒介脳炎患者の発生について

今般、北海道においてダニ媒介脳炎患者の発生が確認されました。
 ダニ媒介脳炎患者の発生は、昨月に続き国内4例目（いずれも道内）です。
 道内では毎年、回帰熱、ライム病を含めたマダニが媒介する感染症の発生報告があります。ダニに咬まれないよう予防措置を講じるとともに、咬まれた場合には医療機関で除去してもらいましょう。もし発熱等の症状が出た場合には、早期に医療機関を受診し適切な治療を受けることが重要です。

記

1 今般発生した事例概要

・疾病名	ダニ媒介脳炎（四類感染症）
・経過	7月中旬発症、医療機関から札幌市保健所に連絡。 ダニの刺咬歴、臨床症状などから医師がダニ媒介脳炎を疑ったため、道立衛生研究所において検査実施。
・検査結果	8月7日、北海道大学大学院獣医学研究院の協力を得て行った中和抗体検査で陽性と判明。
・発生届	8月8日、札幌市内の医療機関から札幌市保健所に発生届 同日、札幌市から当課に報告

2 これまでの発生事例一覧

区 分	平成5年	平成28年	平成29年7月	今般事例
発生届医療機関の所在地保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所	札幌市保健所
性別・年齢	女性・30歳代	男性・40歳代	男性・70歳代	男性・70歳代
感染したと推定される地域	道南圏域	不明（最近の海外・道外旅行歴なし）	道南圏域	調査中
その他		死亡	死亡	

3 マダニが媒介する感染症とは

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニ（食品等に発生する「コナダニ」や、じゅうたんや寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など住宅内に生息するダニとは種類が異なる）で、ダニ媒介感染症（ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など）の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。（別紙、「ダニ媒介感染症の概要」を参照）

(別紙)

ダニ媒介感染症の概要

1 道内のマダニが媒介する感染症

道内で過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症は下表のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15日程度	発熱(微熱であることが多い)、倦怠感、慢性游走性紅斑、希に心筋炎・髄膜炎
回帰熱	7～10日程度	発熱(39℃以上)、筋肉痛、関節痛、倦怠感等
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎等

- これらは、インフルエンザのように人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して伝染することはありません。
- **ダニ媒介脳炎**は、ウイルスが混入した生乳を飲んで感染した例がヨーロッパで知られていますが、ウイルスは72℃10秒で死滅するため、殺菌処理された市販の牛乳から感染することはありません。

2 主なダニ媒介感染症の発生状況(届出件数)

(1) ライム病

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29*
北海道	5	6	9	3	5	7
他都府県	7	14	8	6	3	4

(人) *H29は第30週までの数(7月30日(日)まで)

(2) 回帰熱

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29*
北海道	0	1	1	4	5	1
他都府県	1	0	0	0	2	1

(人) *H29は第30週までの数(7月30日(日)まで)

(3) ダニ媒介脳炎

区分	H5		H28	H29
北海道	1	～	1	2
他都府県	0		0	0

(人)

3 予防方法

マダニに咬まれないようにすることが重要です。マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。

屋外活動後は、すぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

4 マダニに咬まれたら

マダニは体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがありますので、医療機関(皮膚科等)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱、食欲低下、おう吐、下痢等の症状が認められた場合は医療機関(内科等)で診察を受けてください。受診の際は、いつ、どこを咬まれたか、山などに行ったかを医師に伝えてください。

*ダニ媒介感染症については、[北海道保健福祉部健康安全局地域保健課ホームページ \(http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/ticks.htm\)](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/ticks.htm) においても注意喚起を図っています。

*道内の感染症発生状況については、[北海道立衛生研究所北海道感染症情報センターホームページ \(http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html\)](http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html) にて公開しています。

*参考：ダニ媒介脳炎に関する Q&A

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou18/mite_encephalitis.html)

地保第1339号
平成29年6月29日

各総合振興局（振興局）
〔保健環境部〕
〔各地域保健室〕 長 様

保健福祉部健康安全局地域保健課長

ダニ媒介感染症を疑う症例に関する行政検査の取り扱いについて（通知）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第15条に基づく検査（以下「行政検査」という。）については、従前より感染症発生動向調査事業実施要綱等に基づき実施しているところ
です。

この度、ダニ媒介感染症の道内発生状況等を踏まえ、同症を疑う症例に関する行政検査について、
次のとおり取り扱うこととしましたので、御了知いただくとともに、別添通知文（例）を参考に、貴
部（室）管内の郡市医師会及び関係医療機関宛て周知願います。

記

- 1 対象症例
医師からダニ媒介感染症（疑い）として保健所に相談や報告があった症例
- 2 検査の流れ
 - （1）ライム病、回帰熱及びダニ媒介脳炎を疑う症例
医師からの相談等に基づき、保健所が必要と判断した場合は、当該医師に検体等の提出を
依頼する。保健所が受領した検体については、速やかに道立衛生研究所で検査を実施する。
（提供を依頼する検体等及び道立衛生研究所で実施する検査項目は別添のとおり）
 - （2）その他のダニ媒介感染症を疑う症例
重症熱性血小板症候群（SFTS）や日本紅斑熱など（1）以外のダニ媒介感染症を疑う症例
の相談等については、別途個別に対応する。
- 3 ダニ媒介脳炎の検査の実施
道立衛生研究所においてダニ媒介脳炎のスクリーニング検査として抗体検査（ELISA法）及び
北海道大学獣医学研究院公衆衛生学教室（以下「北大」という。）の協力を得て確定検査（中和抗
体試験等）を実施する。
なお、当面の間、全症例（スクリーニング検査の結果を問わない）について、確定検査（中和抗
体試験等）を実施する。
- 4 検査後の対応
検査結果を保健所から医師に通知するとともに、検査結果及び症状・所見からダニ媒介感染症
と診断した場合は発生届を提出するよう依頼する。発生届を受理した場合は、積極的疫学調査（医
師及び患者に対する聞き取り調査等）を実施する。

感染症・特定疾患グループ
担当：島田（25-519）

提供を依頼するもの	道立衛生研究所で実施する検査	備考	
検 体	急性期血液 (血清) *	ライム病・回帰熱：ウェスタンブロット法 ダニ媒介脳炎：ELISA 法	
		病原体の分離・同定 (ライム病・回帰熱)	
		病原体遺伝子の検出 (ライム病・回帰熱)	
	回復期血液 (血清) *	抗体検査 (ライム病・回帰熱・ダニ媒介脳炎)	ペア血清による検査を推奨。
		病原体の分離・同定 (ライム病・回帰熱)	皮膚の紅斑の症状がある場合に限る。
		病原体遺伝子の検出 (ライム病・回帰熱)	脳炎・髄膜炎等の症状がある場合に限る。
	髄液 (摘出されたマダニ)	抗体検査 (ライム病・回帰熱・ダニ媒介脳炎)	ヒト由来検体の検査結果に対する補完的な材料として利用。
		病原体の分離・同定 (ライム病・回帰熱) 病原体遺伝子の検出 (ライム病・回帰熱)	
	検査票*	—	—
	血液検査結果 (生化学的検査) *	—	発生動向調査上の参考情報として、提出を依頼。

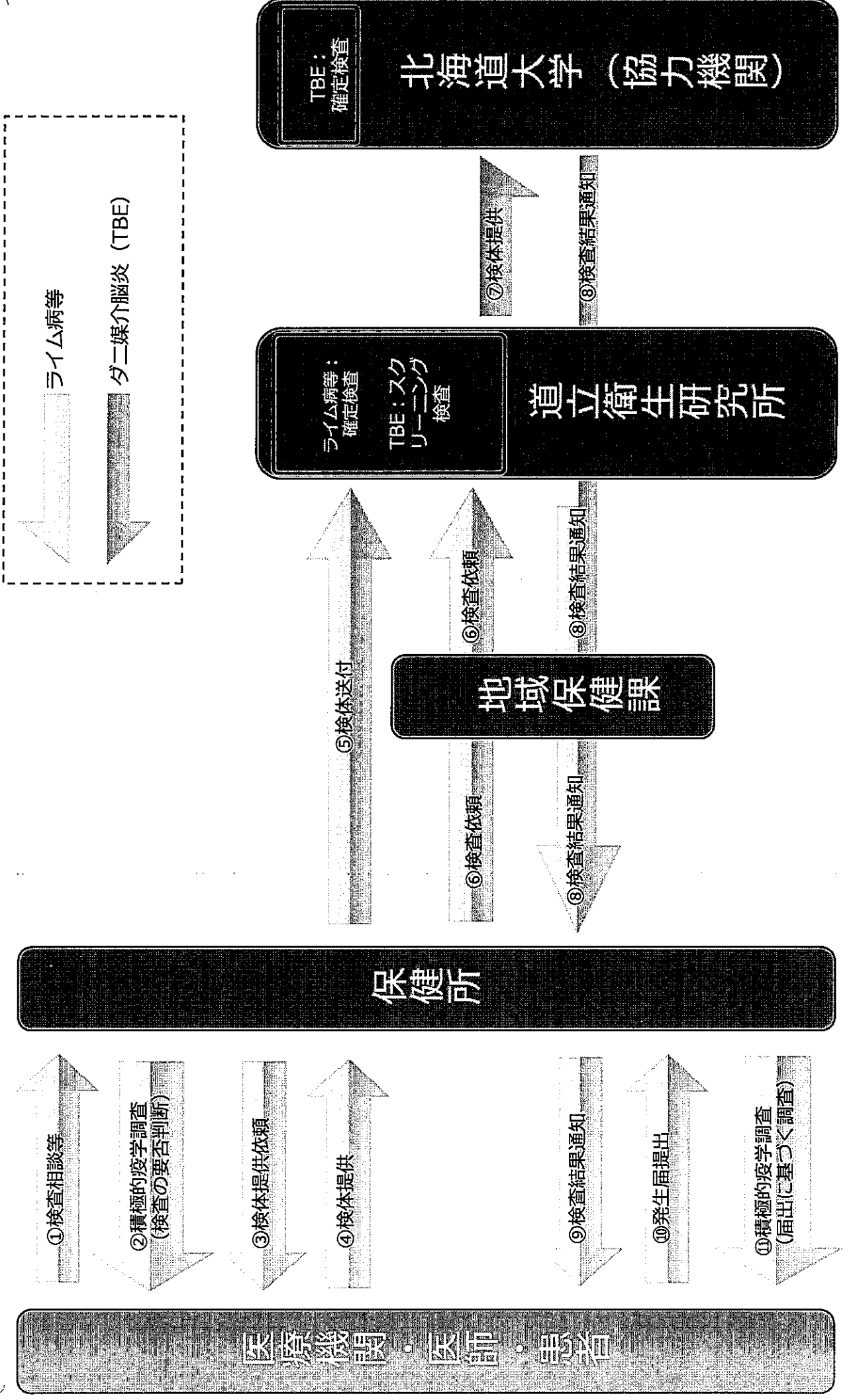
(提出時留意事項)

*の項目の提出は必須であること。

*の項目はできるだけ限り提出が望ましいこと。

対応フロー（ダニ媒介感染症を疑う症例の対応）

海外渡航歴や国内旅行歴や臨床症状（例：血小板減少）などからSFTSや日本紅斑熱などを疑う症例の相談については個別対応のためフローから除外。（現状、SFTSについては道衛研で検査可能。日本紅斑熱は国立感染症研で検査対応となる。）



ライム病等

ダニ媒介脳炎 (TBE)

TBE:
確定検査

北海道大学 (協力機関)

ライム病等:
確定検査
TBE: スク
リーニング
検査

道立衛生研究所

地域保健課

保健所

医療機関・医師・患者